

渡島農業改良普及センター 本所

■ 水稲直播栽培の定着で稲作園芸複合経営の確立を目指す

背景

- 稲作農家戸数の減少、水稲作付面積は、約3,000ha前後で維持(図1)
- 経営の柱は園芸作物で、稲作は経営補完作物。施設野菜のみで経営するケースも多く、今後も稲作農家戸数及び水稲作付面積の減少が想定。
- 収益性向上、労働・作業の効率化・水稲面積維持を図るため、水稲直播栽培導入による稲作園芸複合経営が求められている。

取り組みの経過

- 平成9年に普及センターから直播栽培導入提案。
- 平成12年から湛水・乾田直播の栽培方法検討開始。
- 平成14～16年に種子コーティングマニュアル、直播栽培マニュアル作成で取り組み支援。
- 平成16年以降、農家・関係機関・試験場・普及センターで技術体系化チームを設置、低蛋白質米生産の実証や管理要点(ほ場準備・雑草対策等)をマニュアル化(図2)し、安定栽培に向けて支援。
- 直播栽培定着に向け、組織の立ち上げ支援。

取り組み成果

☆組織立ち上げで 直播面積の拡大へ

平成19年 北斗市・七飯町の広域組織
「水稲直播推進協議会」の設立、は種機導入

現在、各地域で、は種機利用組織が稼働

- ・北斗市米穀振興会直播部会
- ・七飯町機械利用組合 など

面積の拡大の原動力に！

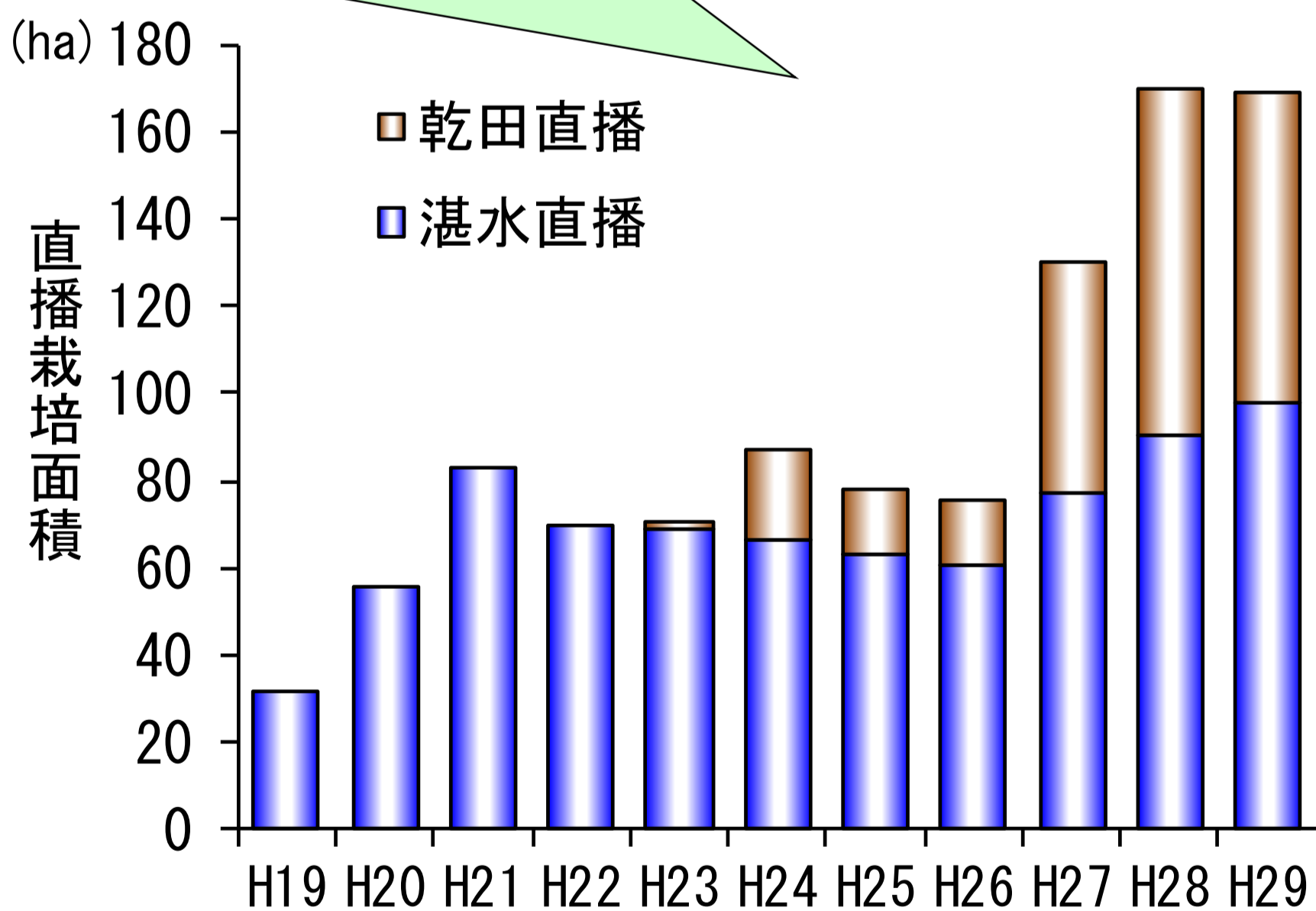


図3 水稲直播栽培面積推移 (渡島管内)

☆主力の野菜生産も拡大 (北斗市)

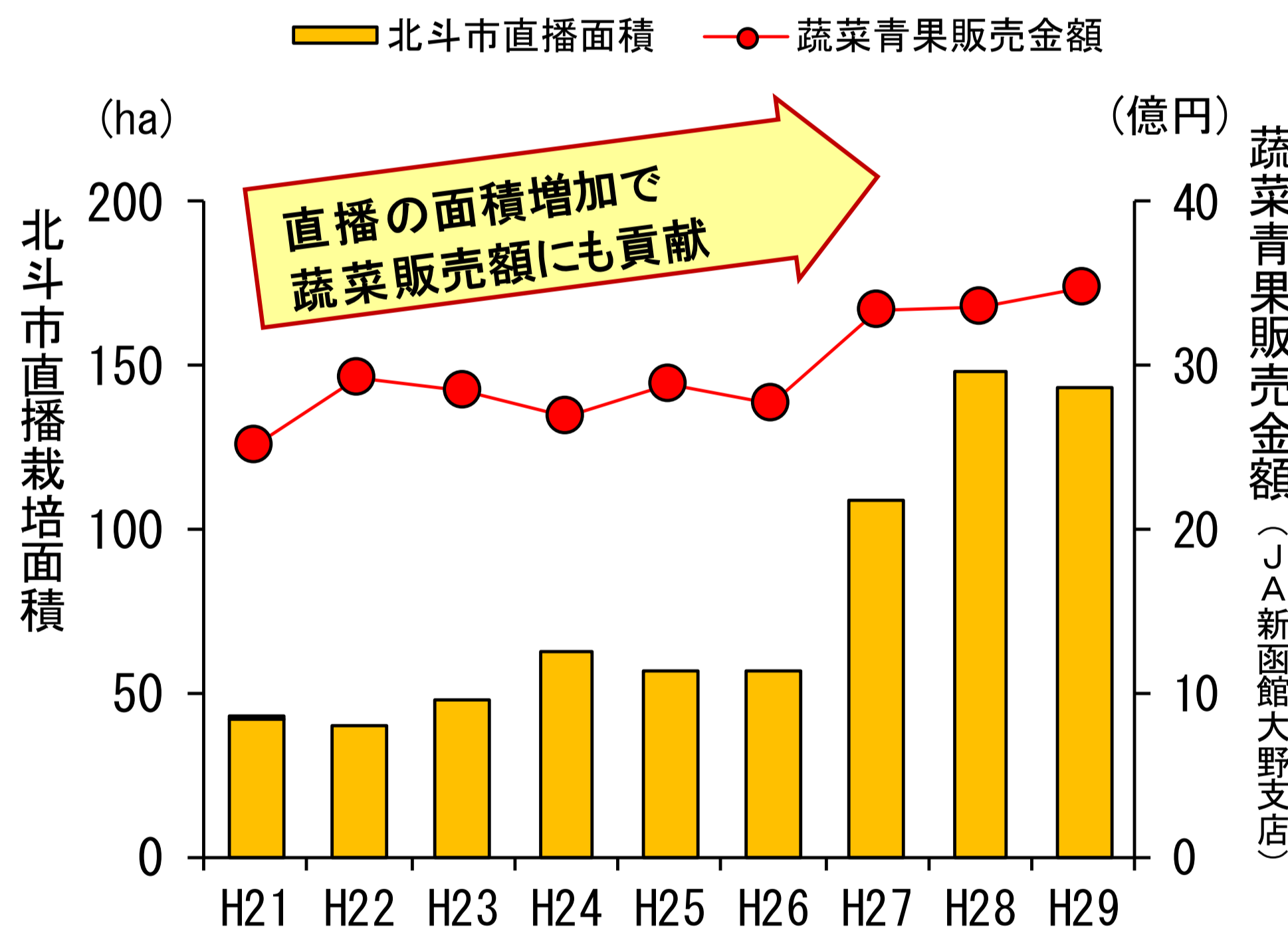


図4 直播栽培面積と野菜販売額推移 (北斗市)

直播栽培で浮いた労働力を園芸品目へ
トマト等の面積増加で売り上げにも貢献！

☆直播米のブランド化



写真2 直播栽培米のパッケージ

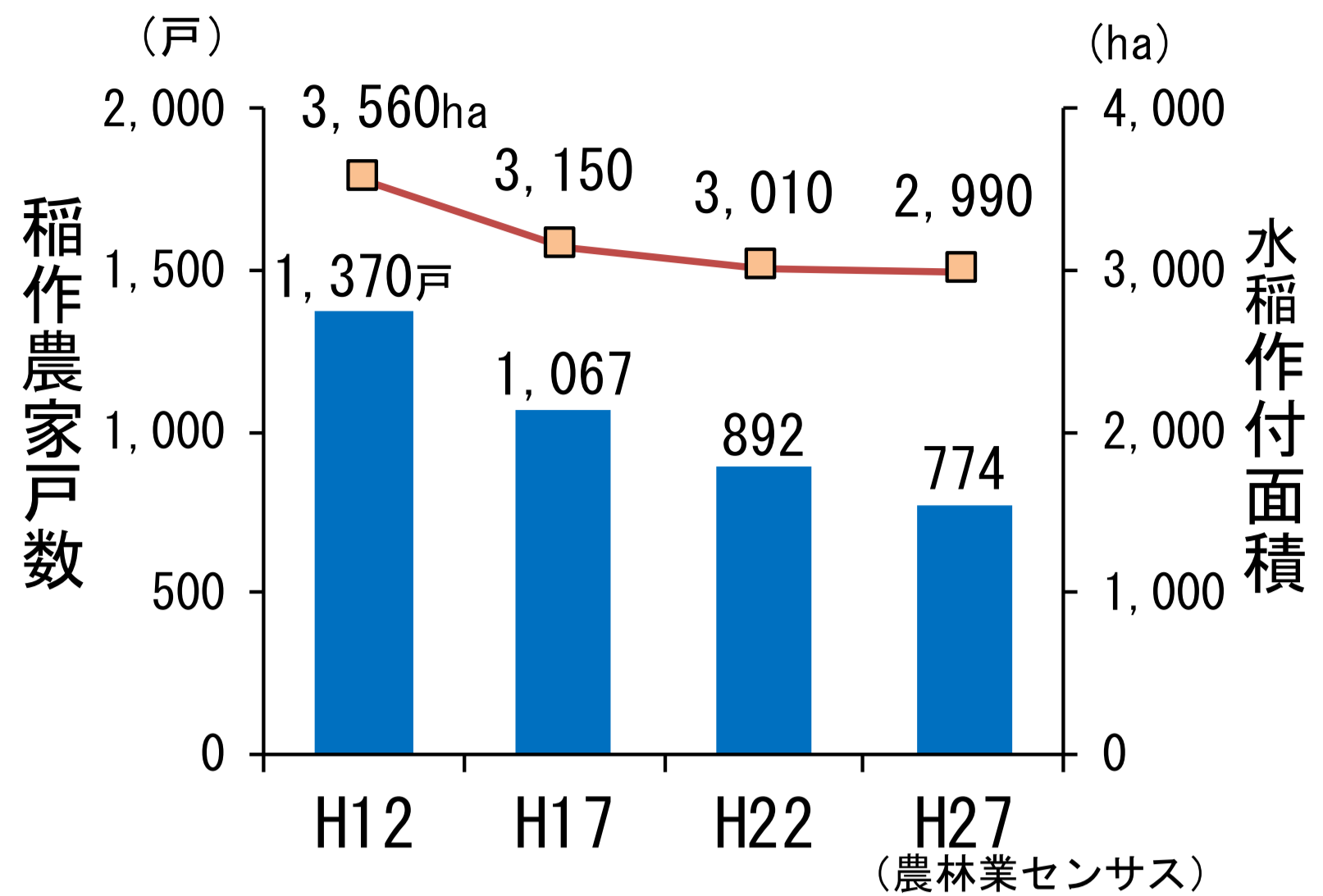


図1 稲作農家戸数及び水稲作付面積



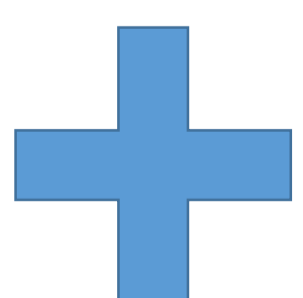
写真1 直播栽培は種作業



図2 水稲直播栽培マニュアル(H19)

今後の展開 ～稲作省力化の新たなチャレンジ～

水稲直播栽培



＝高密度は種移植栽培(密苗栽培※)＝



- ・は種、育苗、苗運搬、移植作業が省力化できる。
- ・水稲直播に取り組みにくい農家、移植と直播の併用農家でも、密苗の導入で省力化に期待！

「※密苗」はヤンマーアグリジャパン株式会社の登録商標

さらなる稲作省力化で、
渡島管内の稲作園芸複合
経営の確立を目指す！